THE DAY AFTER TOMORROW

デイ・アフター・トゥモロー

Vol.2

映画で学ぶ環境問題

「ちょっとわかりづらい環境問題」を「楽しみながら映画で学ぶ」シリーズ第２弾の今回は２００４年製作の「デイ・アフター・トゥモロー」のご紹介です。

映画の都ハリウッドで製作されただけあって冒頭の氷河地割れ場面から息もつかせぬほどのスペクタクルが満載で「インディペンデンス・デイ」など一流の娯楽作品を作り続けているローランド・エメリッヒ監督ならではのスリル感あふれる最新ＶＦＸが続々登場します。

東京を舞台とするシーンでは仕事帰りのサラリーマンが雹（ひょう）に襲われるのですがあまりのたどたどしい日本語にちょっと苦笑してしまうものの、巨大な竜巻が複数発生してロスアンジェルスが壊滅する様子やニューヨークを襲う巨大津波シーンなどは見ごたえがあります。

デイ・アフター・トゥモロー
2004年製作・アメリカ映画 /20世紀フォックス
製作 / 監督 / 脚本 ローランド・エメリッヒ
主演 デニス・クエイド

軸となるのは、『地球温暖化により極地の広大な氷河が溶け出して氷河期への急変「スーパーフリーズ」を引き起こす』という説です。

「え？暖かくなるはずの温暖化なのに氷河期への急変？」

と、一般人には理解しづらいこの設定が、見事にシナリオにも活かされており、実際にストーリーでもこの学説を政府が無視をしてしまうことから被害が拡大してしまうお決まりのパターンとなるわけです。

広大な氷河が溶け出すと海水温が低くなるだけでなく、膨大な淡水が流れ込むことによって北大西洋など海流中の塩分濃度のバランスが崩れ、水流の循環が弱まることで低温下現象が急激に早まるというわけですが、厳密な科学の目で見ると矛盾する内容であるのは娯楽作品としては致し方が無いことでしょう。

しかし、映画やドラマを「実情と違う」と言い出してしまっては、か弱き女性が殺人鬼に遭遇して悲鳴を上げるシーンなども、心理学者に言わせると「恐怖のあまり声が出ないはず。」となるのですから、そこまで目くじらを立てていては世の中から娯楽は無くなってしまいます。

政治を風刺する「水戸黄門」がフィクションであるように、現代人に訴えるメッセージがきちんと織り込まれている本作品は、フィクションの王道とも言える娯楽作品ならではでしょう。

原題の「The Day After Tomorrow」は「明後日」という意味ですが、こういった急激な環境変化が起こるのも明後日かもしれませんよ、という制作者のメッセージでしょうか。

ぜひじっくりノーカットでお楽しみ頂きたい作品です。

ユニーク 街で見つけたエコグッズのご紹介

Ｍｙ箸（マイ・はし）と言えば、環境機運が高まっている今、とりわけ人気の高いエコ商品と言えるでしょう。

元々割り箸は、間伐材の再利用として広まったのですが、現在日本で使用されている物は９０％以上が中国を中心とした外国からの輸入品です。そのため、防かび剤や漂白剤を使用しているので身体に悪いという事と、輸出地の森林伐採が行き過ぎて砂漠化を進めてしまい、たとえば黄砂がひどくなる原因になっている事が問題だと言われています。またゴミ問題を考える時、大量の割り箸を減らすだけで、かなり環境に貢献できるという考え方から、今、Ｍｙ箸は着実に広まってきています。

今回ご紹介したいのは、そんなＭｙ箸の中でも、事業家の中村文昭氏が取り組んでいる「スイッチｏｎハウス」という、ニートやひきこもりの自立支援グループで製造しているものです。

中村氏は外食事業で成功している事業家ですが、世の中のためになる事をめざして、ニートやひきこもりを北海道と沖縄に集め、そこで農業に取り組ませています。これが意外に成功しており、今では多くの若者が自立をめざして日々活動しており、農作物以外にもこういったＭｙ箸など何種類かのヒット商品を販売しております。

環境のためにも、世の中のためにもなる「スイッチｏｎハウス」のＭｙ箸。みなさんも１ついかがですか？　８００円～２５００円程度で販売されています。

http://www.simpletask.co.jp/my_hashi.html

大日新聞では情報として市販のエコグッズをご紹介しておりますが、推奨品としてお薦めする製品ではありません。

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び
大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

スタッフ紹介

日頃は営業活動で皆様にお目に掛かっておりますスタッフの日常をお伝えします。

みなさんは「茅ヶ崎」というと何を思い浮かべますか？茅ヶ崎といえば「海」と言われますが、その後に思い浮かぶ人物となると・・・。「サザンオールスターズと桑田佳祐」と「加山雄三」。さてあなたはどちらでしょうか？

今回は、横浜生まれの茅ヶ崎育ちの私がお国自慢をしたいと思います。

私の年代で「茅ヶ崎」といえば、やはりサザンオールスターズ。カラオケで「今何時！」の合いの手を元気よく叫んでいる。私もそんな一般的な茅ヶ崎市民です。

彼らが２０００年８月に茅ヶ崎で行ったコンサートはまだ記憶に新しいと思いますが、会場の茅ヶ崎野球場の改修にかかった費用は何と約２億円。それ以降、今もコンサートは行われていません。一回限りのコンサートのために、この費用はどう考えても高いのではないかという意見がありましたが、町おこしという点から見れば２億円かけて正解だったようです。

お陰で茅ヶ崎の人口は、ここ数年で急激にアップ。若い夫婦や子供が増え、不動産業が大いに賑わっています。改修費用ではなく、茅ヶ崎の宣伝費用。当時の市長は英断をしたと思います。

古参の地元有力者やなどからは不満の声が根強くあります。彼らの大半はどうやら加山雄三派。意見の食い違いの根元には、意外な原因があったようです。

そんなある中、サザン活動停止報道は、市民に衝撃を与えました。茅ヶ崎の人気が下がれば地元経済も下向きになってしまい、死活問題です。

そんな活動停止報道に地元商店以上に困っているのが、都市基盤整備公団ではないかと噂さが・・。数年前から海岸沿いのマンモス団地の立替えが始まったばかりなのです。

また、これによって実は弊社の売上げにも少なからず影響するのではと心配しております。きっと団地には「ビッグサン建築用」や「ビッグサン土木用」が使われているに違いありません。そして団地の屋上には、薄層緑化システム「VUS500」・「エコルーファー」が。団地の取り壊しで、アスベスト除去には「ベストール」が・・・。

落ち着いて考えれば、サザンが活動しなくても、桑田さんが歌を歌い続けてくれる限りは茅ヶ崎人気にはあまり影響はないように思われます。たとえ活動停止で人気が衰えたとしても、加山雄三さんが居れば、茅ヶ崎人気は維持出来ることでしょう。（個人的に加山雄三の「夜空の星」は名曲だと思います）

どちらもそれぞれ「サザン通り」・「雄三通り」と通りに名前が付けられるほど、茅ヶ崎を象徴する方達。今後とも頑張って欲しいものです。

湘南ソング、フォーエバー！

東京営業所
U・K

DAINICHI CHEMICAL CO.,LTD.
●本社
〒571-0030　大阪府門真市末広町 8-13
TEL：06-6909-6755(代)　/　FAX：06-6909-6702
●東京営業所
〒105-0013　東京都港区浜松町 1-2-11
TEL：03-3436-3801(代)　/　FAX：03-3436-3803

次号も
お楽しみに！

URL：http://www.dainichikasei.co.jp